

国立大学法人東京外国語大学  
スーパースーパーグローバル大学創成支援事業  
外部評価報告書

令和5年10月

## 目次

1. 目的 .....	1
2. 評価方法およびスケジュール .....	1
(1) 評価方法.....	1
(2) 全体スケジュール .....	2
(3) 外部評価委員会の流れ .....	2
3. 外部評価委員 .....	2
4. 評価項目 .....	2
5. 外部評価結果 .....	4
(1) CEFRの取り組みについて .....	4
(2) 学生の海外派遣について .....	4
(3) Joint Education Programについて.....	4
(4) 海外拠点(Global Japan Office)の活動について.....	5
(5) ガバナンス改革関連について .....	5
(6) 教育の改革的取組関連について.....	5
(7) 提案・課題 .....	5
(8) その他 .....	6
6. 総括と今後の展望 .....	6
7. [参考]外部評価の書面評価結果一覧 .....	7
(1) 大学の独自指標の進捗状況について.....	7
(2) 各大学共通の成果指標と達成目標 .....	7
8. 参考資料 .....	8

### 1. 目的

東京外国語大学は、2014(平成26)年10月に文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB:グローバル牽引型)に採択され、「世界から日本へ、日本から世界へ一人と知の循環を支えるネットワーク中核大学」をスローガンにさらなる大学のグローバル化を進めてきた。

本事業では、採択大学全体に共通する成果指標41項目に加えて各大学が独自の成果指標を定めることとされており、本学は、7項目の指標を定めている。事業採択大学には、これらの指標に基づく年度ごとのフォローアップ活動または中間評価(期間中2回)及び期間終了後の事後評価が義務付けられており、さらに外部有識者で構成される委員会等から運営についての助言を得るとともに、中間評価年度及び最終年度における適切な評価の実施が課されている。これらを受けて、本学では、最終年度にあたる2023(令和5)年度において外部評価を実施した。

### 2. 評価方法およびスケジュール

#### (1) 評価方法

外部評価に先立ち、本学のSGU事業に関して1~5の5段階による自己点検評価を実施

した。自己点検評価結果に対して、外部評価委員に「A」、「B」、または「C」の3段階で書面評価を依頼し、外部評価委員会後に書面にて講評を依頼した。

## (2) 全体スケジュール

- 2022年 12月 国際マネジメント・オフィス会議にて、外部評価の実施方針の決定
- 2023年 3月 外部評価委員の決定
- 7月 国際マネジメント・オフィス会議にて自己点検評価の承認、外部評価書面評価依頼
- 8月 書面評価結果とりまとめ
- 9月 書面評価における質問事項への回答書提出  
外部評価委員会(対面)開催
- 10月 国際マネジメント・オフィス会議にて外部評価報告書を審議、ウェブサイトにて公開

## (3) 外部評価委員会の流れ

2023年9月7日(木)に以下のスケジュールで対面により開催した。

内容	時間
構想責任者等からの説明	30分
留学経験者2名による発表、質疑応答	40分
講評および質疑応答	45分

## 3. 外部評価委員 ※順不同

亀山 郁夫氏(名古屋外国語大学 学長)

小澤 弘明氏(千葉大学 理事)

三浦 愛香氏(立教大学 外国語教育研究センター 教授)

## 4. 評価項目

日本学術振興会の公開する評価項目に従い、各大学共通の成果指標・達成目標と本学独自の成果指標・達成目標を採用した。

### 【各大学共通の成果指標と達成目標】

#### 1. 国際化関連

- (1) 多様性
- (2) 流動性
- (3) 留学支援体制
- (4) 語学力関係
- (5) 教務システムの国際通用性
- (6) 大学の国際開放度

## 2. ガバナンス改革関連

- (1) 人事システム
- (2) ガバナンス

## 3. 教育の改革的取組関連

- (1) 教育の質的転換・主体的学習の確保
- (2) 入試改革
- (3) 柔軟かつ多様なアカデミック・パス

## 4. その他

- (1) 教育情報の徹底した公表

### 【大学独自の成果指標と達成目標】

#### (定性的指標1) 全学教養日本カプログラムの整備・実施・点検についての目標

学部共通の全学教養日本カプログラムについて、その内容とカリキュラム設計を行い、平成28年度から実施に移す。その後、カリキュラムの点検を行い、教育の質の向上を図る。

#### (定性的指標2) 大学グローバル化支援についての目標

Global Japan Office が、本学学生にとどまらず、国内他大学への留学を希望する外国人学生や海外で学ぶ国内他大学の日本人学生への支援を行う。また、Global Japan Officeを統括するTUFS留学支援共同利用センターは、広く日本で学ぶ留学生にそれぞれの母語によるコミュニティ・サポートを行う。

#### (定量的指標1) 語学力(語学力に関するチャレンジ目標達成者)

英語については、最低保証の考え方をとり、全学生を対象にTOEIC800点相当以上を達成基準とすることに加え、次のいずれかを卒業時に達成した学生の人数を定量的指標として測定する。

- ① 英語以外の外国語において、[CEFR-J/C1]
- ② 英語において、TOEIC900(または、それに準じる他の外部試験スコア)
- ③ 3つ以上の外国語において、[CEFR-J/B2]

#### (定量的指標2) Joint Education Program の開設数

海外協定校の学生と本学学生が共学し、それぞれが単位を取得する科目を開設する。本指標は、実際のプログラムの開設数により測定する。

#### (定量的指標3) 留学200%達成者+(定量的指標4) 本学学生の全世界的展開

(定量的指標3) 交換留学の増加は、海外協定校の増により実現する。短期海外留学は、世界教養科目「短期海外留学プログラム」のプログラム数を順次拡大し、1年次のほぼ全員が参加できるよう整備する。Joint Education Programによる単位認定を含むスタ

ディーツアーや海外インターンシップなど、海外協定校を中心とした共同企画による留学の機会提供により飛躍的にその数を増加させ、1人2回以上の留学(「留学200%」)を達成して卒業する学生の割合を90%まで引き上げる。(定量的指標4)この留学は世界の諸地域に向けて行われるため、地域別の留学者数の目標を設定し、達成をめざす。

(定量的指標5) Global Japan Officeの設置数+(定性的指標2) 大学グローバル化支援

(定量的指標5) 日本語・日本文化教育の拠点となるGlobal Japan Officeを整備する。この取組は、Global Japan Officeの設置数により定量的に測定される

(定性的指標2) Global Japan Officeで行われる事業の海外協定校及び国内他大学のグローバル化への貢献度を外部評価により測定する。

(定性的指標1) 全学教養日本カプログラムの整備・実施・点検についての目標

本指標は、カリキュラムの整備状況、履修者の学修達成度の状況、海外留学との相関、学生授業評価、交換学生に対する海外協定校からの日本発信者としての評価などにより、総合的に判断する。

## 5. 外部評価結果

(1) CEFR-Jx28の取組みについて

- ・ CEFR-Jのプロジェクトについては大変な苦勞を伴う、時間のかかる取組であることはよく理解している。多言語に応用されており、アセスメントとしてテストを作成・実施していることやさらに学生の自立した学習を促すようなかたちで提供していることは、他大学にはできない取組である。(三浦委員)
- ・ 欧州の参照基準を大幅に拡張し、ユニバーサルな基準を創設しようという意欲的な取り組みである。東京外国語大学ならではの特徴的な事業であり、波及効果も大きい。(小澤委員)
- ・ CEFRを日本の英語教育に適応し、さらには28の専攻言語を評価するために枠組みの構築に役立てようとしている点は評価できる。(亀山委員)

(2) 学生の海外派遣について

- ・ 学生の留学先のバリエーションがきわめて豊富で、言語教育と結びついた多様性を見取ることができる。また、インターンシップやボランティアの機会を含む社会的学びの機会もあり、多くの学生のニーズに的確に応えており、学生の評価も高い。(小澤委員)
- ・ 短期留学から長期留学への道筋が明確であり、派遣留学に行く学生数の多さは特筆すべきである。また、留学200%という高い目標も、未達ではあったもののおおいに意欲的であった。(小澤委員)
- ・ 意見交換を行った学生は、双方ともに、SGUによる二度の海外派遣の成果を生かし、現実世界に直面している問題に主体的なアプローチを見出し、その経験と問題意識を卒業後のキャリアに生かしている。(亀山委員)

(3) Joint Education Programについて

- ・ 目標値を超える成果を出した点は高い評価に値する。(亀山委員)

- ・ コロナ禍で留学が制限された数年間においても、海外協定校との「特定非常勤制度」の導入など、学生の学びの機会を失わないような体制づくりに最大限努めたことは、ポスト・コロナの現在にも生かされており、高く評価できる。(三浦委員)

#### (4) 海外拠点(Global Japan Office)の活動について

- ・ 現在21あるGlobal Japan Officeの設置には多大な労力が必要とされたと推測されるが、Global Japan Officeは、学生の安全確保、日本学教育の推進、各種交流イベント等を介した日本語・日本文化への関心の喚起など、種々の派生的な効果を生み、日本のグローバル化への貢献という思わぬ成果を生んでいる。設置の戦略として地域的な多様性に十分に配慮している点を高く評価したい。(亀山委員)
- ・ 海外協定校についても、中核的協定校を設定し、そこにGlobal Japan Officeを置くという戦略的な対応を取っている点は評価できる。(小澤委員)

#### (5) ガバナンス改革関連について

- ・ 人事システムにおいては、年俸制適用者比率やテニユアトラック制が有効に活用されている点などを高く評価する。引き続き、教員の流動性確保、年俸制適用者の拡大に努力することを期待したい。(亀山委員、小澤委員)

#### (6) 教育の改革的取組関連について

- ・ 全学としての教育効果と課題の把握に終始するのではなく、ディプロマ・ポリシーを念頭におき、学生自身が個々に主体的に学びを進めていき、学修を振り返り、卒業後の姿を客観的に描くことができるようにする教育支援の仕組みは、他大学にとっても模範的であると言えよう。特に、面談を行った2名の学生による留学とそこから得た学びについての発表を通して、貴学のグローバル人材の育成が理想的な形で結実していることを具体的に確認できた。(三浦委員)
- ・ 学習成果のTUFSS RECORDへの書き込み、「学修活動履歴書」の作成、「TUFSSディプロマ・サプリメント」の発給などは、初期の困難を克服し、順調に推移していることはたいへん好ましい。(亀山委員)
- ・ 「TUFSSディプロマ・サプリメント」に見られるように、個々の学生のサポートをきめ細やかに実施していく仕組みづくりを多方面かつ体系的に徹底していることが、本事業の目標達成に大きく貢献していると思われる。(三浦委員)
- ・ アクティブラーニングの成果に関する調査は高く評価できる。(亀山委員)
- ・ 外国語による授業科目数が目標値を2倍近く上回っている点をとくに評価したい。(亀山委員)

#### (7) 提案・課題

##### 【国際化関連】

- ・ 留学・就職支援・ボランティア活動に携わる異なる部局の連携の強化(三浦委員)
- ・ 留学の送り出し・受け入れのインバランスや国際的な政治・経済の動向に左右される地域戦略の適切な立案・実行(小澤委員)
- ・ 留学の奨学金制度に関する情報の提供方法の改善(三浦委員)

### 【ガバナンス関連】

- ・ 職員の人材育成において、さらに高い目標設定とその実現（亀山委員）

### 【教育の改革的取組関連】

- ・ 学生の主体的参加と大学運営への反映の促進についての検討（亀山委員）
- ・ 留学による教育的効果の定量的な把握と評価及び対外的な情報共有（三浦委員、小澤委員）
- ・ CEFR-Jx28プロジェクトの取り組みの継続と汎用的な活用の可能性も含めた対外的な情報共有（三浦委員、小澤委員）

### (8) その他

- ・ 大学が独自で開発したオンデマンド日本語学習教材「Tomodachi」（初級）が大きな関心を惹く。（亀山委員）
- ・ CEFR-Jx28は普遍的な有用性を持つため、他大学への横展開にさらに努めることが望ましい。（小澤委員）
- ・ 国際日本学部第3年次編入学試験における10月入試の実施は、先見的試みとして高く評価できるが、大学全体としてはよりいっそうの先鋭なカリキュラム改革と入試改革が求められる。（亀山委員）
- ・ 留学制度は東京外国語大学にとって、今や教育上の生命線であり、送り出しのシステムができるだけ機能的かつ、学生の安心を保障できるものでなくてはならない。これにはGJOのさらなる充実化が求められるが、持続可能性の観点では財政面での懸念がある。（亀山委員）

## 6. 総括と今後の展望

自己点検評価書および本学からの説明を踏まえ、外部評価委員からは、本学の特徴的な取り組みであるCEFR-Jx28、Joint Education Program、海外派遣の支援体制、Global Japan Office、TUFSディプロマ・サプリメントなどについて高い評価を受けた。その一方、国内他大学のグローバル化に寄与するため、東京外国語大学が築いてきたモデル・制度やノウハウの対外的な横展開への期待が表明され、それを推進するため、とりわけ留学等の教育的効果を定量的に把握・評価する重要性について建設的な助言や提言がなされた。また、教育改革における国際化の更なる推進においても、具体的な提案があり、多くの気付きを与えていただいた。

本学では、外部評価委員の意見及び提案を踏まえ、以下の点に留意してSGU事業終了後の自走と更なる国際化の推進に取り組む。

### (1) CEFR-Jx28の取組による成果の国内他大学等への横展開

学内のLinguaテストセンターにて、外部提供可能な形での各言語のテスト開発を進めており、外部試験が実施されていない言語を含め、国内他大学等へ横展開することのできる体制を整備する。

### (2) 留学による教育的効果の定量的・客観的な把握・評価とその横展開

学生の自己分析によって質的に確認する方法が有効だと考えているが、テスト受験等の量

的・客観的な評価方法についても並行して検討する。

(3) 留学に携わる学内の異なる部門間の連携強化

アカデミックサポート担当部署、留学交流担当部署、ボランティア活動担当部署、就職支援担当部署など、学内の様々な学生支援部署間の更なる連携強化をはかることにより、入学から就職・進学に至るシームレスな学生支援体制の充実に努める。

(4) 授業科目のナンバリングへの取組等の英文発信強化

教務システムの更なる国際通用性の向上を目指し、分野別ナンバリング等の英文発信による情報公開を検討する。

(5) 学生の主体的参加と大学運営への反映の促進

学生の声を大学運営に反映させる方策の具体化に努める。

## 7. [参考]外部評価の書面評価結果一覧

(1) 大学の独自指標の進捗状況について

評価指標	(自己評価)	A	B	C	外部評価の主なコメント
語学力	4	1名	2名	0名	TOEIC 一斉テストの複数回受験などを介して、語学力の定量的評価に役立て、成果を出している。
Joint Education Program 実施数	5	3名	0名	0名	ウィズ・コロナという困難な状況下で、「国際共同教育」の理念に即したジョイントプログラムが目標値を超える成果を出し、最大限の努力がなされたと評価する。
留学 200%達成者 + 本学学生の全世界的展開	4	2名	1名	0名	留学 200%の達成は高い目標であるだけに未達はやむをえない側面がある。
Global Japan Office の設置数 + 大学グローバル化支援	4	2名	1名	0名	現在 21 ある GJO の設置には多大な労力が必要とされたと推測される。

(2) 各大学共通の成果指標と達成目標

評価指標	(自己評価)	A	B	C	主なコメント
国際化関連	4	3名	0名	0名	総じて実施計画を高く上回っており、評価できる。また内容的にも充実している。
ガバナンス改革関連	5	3名	0名	0名	各取り組みにおいて、目標値を達成しており、大学全体としての改革が順調に進んでいることが確認できる。

教育の改革的取組関連	4	2名	1名	0名	教育の質の向上を目指した体系の強化や多様性のある学生を受け入れる入試改革に多方面から取り組み、成果を生み出している。
------------	---	----	----	----	--

## 8. 参考資料

- ・参考データ集「[目標の進捗状況](#)」(PDF)
- ・参考データ集「[留学白書2022](#)」(PDF)
- ・JSPS広報資料「[取組内容の進捗状況](#)」(PDF)
- ・[Global Japan Office 活動日誌](#) (ウェブサイト)
- ・[Joint Education Program報告書](#) (ウェブサイト)